

“いざ”というとき役に立つ ガソリン燃焼器具 メンテナンスハンドブック

Coleman Lantern and Stove
Maintenance Handbook



The Outdoor Company™

CONTENTS

3	燃焼器具に使用する燃料
4	ガソリン燃焼器具の基本知識
8	「ワンマントルランタン」の使い方
10	「ノーススター [®] チューブマントルランタン」の使い方
12	「413H パワーハウス [®] ツーバーナーストーブ」の使い方
14	「スポーツスター [®] II」の使い方
16	よくある質問 ▶ 「ホワイトガソリン全般」編
18	よくある質問 ▶ 「ランタン」編
20	よくある質問 ▶ 「ストーブ」編
22	メンテナンス
	■メンテナンスに必要な工具
	■ポンププランジャー式のメンテナンス
	■ポンプカップの交換
	■チェックバルブのメンテナンス
24	■バルブステムの増し締め
	■ワンマントルランタンのジェネレーター交換
26	■ノーススターチューブマントルランタンのメンテナンス
	■ノーススターチューブマントルランタンのジェネレーター交換
28	■413H パワーハウスツーバーナーストーブのメンテナンス
	■413H パワーハウスツーバーナーストーブのジェネレーター交換
30	■スポーツスターIIのジェネレーター交換
31	コールマン ランタン / ストーブのアクセサリ

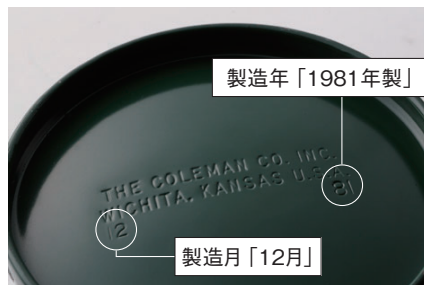
使うほどに愛着が増していく、そんな道具との出会い

コールマン製ガソリンランタン／ストーブのタンクの底面には、いつ頃製造されたものかが分かる刻印がされています。あなたのランタン／ストーブもチェックしてみてください。ひよっとしたら、あなたの“先輩”かもしれません。また、定期的なメンテナンスを行うことで、長い間使い続けることができます。たとえ今手に取ったモデルが製造されたばかりのモデルであっても、アウトドアを共にすることで、いつしかあなただけの味わいのあるアイテムへと変わっていきます。剥がれたペイントもボディのへこみも、あなたとコールマン製品が歩んだアウトドアの歴史なのです。

※この刻印は部品として製造された刻印なので、製品として販売された時期とは異なります。あくまで目安としてお考えください。

製造年月日の刻印

ランタンの燃料タンクの裏側



この刻印により、「1981年12月、アメリカ・カンザス州ウィチタで製造されたランタン」ということがわかる

413Hパワーハウス
ツーバーナーストーブ本体の裏側



この刻印により、「2013年4月、アメリカ・カンザス州ウィチタで製造されたストーブ」ということがわかる



燃焼器具に使用する燃料

コールマンのランタン／ストーブに使用できる燃料は、ホワイトガソリンとLPガスの2種類があります。それぞれに特徴がありますので、用途に応じた使い分けが必要になります。

■燃料の種類

ホワイトガソリン



メリット

- 引火点が低く、燃えやすい性質のため、寒冷地でも安定した火力が得られる。
- 長時間安定した火力が得られる。

デメリット

- ポンピングなど、点火のための作業が必要。
- 器具の定期的なメンテナンスが必要。
- 気化しやすく容易に引火するため取り扱いに注意が必要。

LP ガス



メリット

- プロパンとブタンの混合ガス。カートリッジ式で操作が簡単で、故障も少ないため、初心者でも扱いやすい。

デメリット

- 外気温の影響を受けやすく、10℃以下の状況では安定した火力が得にくい。
- 長時間使い続けると徐々に火力が低下する。

■コールマン純正ホワイトガソリンと一般的なホワイトガソリンの違い

ガソリンタイプのランタン／ストーブには、専用のホワイトガソリンを使用します。燃焼効率が高く、器具を長持ちさせる効果が期待できる純正ホワイトガソリン「エコクリーン」をご使用ください。

「エコクリーン」とは？

エコクリーンはホワイトガソリンをさらに精製し、人体や自然に有害な物質をすべて排除した、環境対応型燃料です。

〈特長〉

- ① 高い燃焼効率
- ② ジェネレーター内の洗浄力が高く、目詰まりしにくい
- ③ 自然環境に対して低負荷
- ④ 燃焼類特有の臭いをカット

※ 「こぼれ」「漏れ」には注意してください。



コールマン純正ホワイトガソリン「エコクリーン」

米国本社の分析表に基づいて精製し、臭い、カーボンなどの発生を抑えています。ほかの液体燃料と区別するため、青く着色されているのも特徴のひとつです。

一般的なホワイトガソリン

原油精製の過程で得られる無添加、無着色のガソリンで、機械などの洗浄油としても使用されます。ただし純正品に比べ、精製が徹底されていないため不純物も多く、臭いや詰まりなど、器具のトラブルにつながるが多くなります。

ガソリン燃焼器具の基本知識

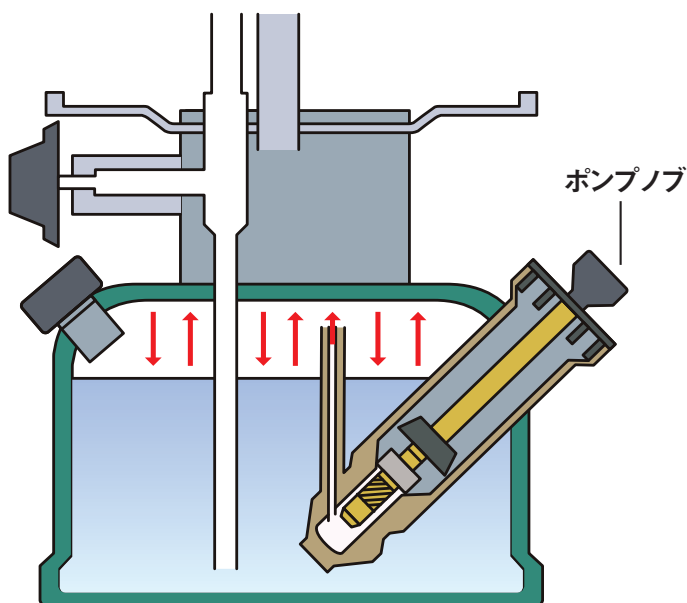
コールマンのホワイトガソリンを燃料とする、燃焼器具の基本的な構造、使い方をご紹介します。

※このページのイラストは「ランタン」ですが、ストーブも基本的に同じ仕組みで燃焼します。

■基本的な仕組みについて

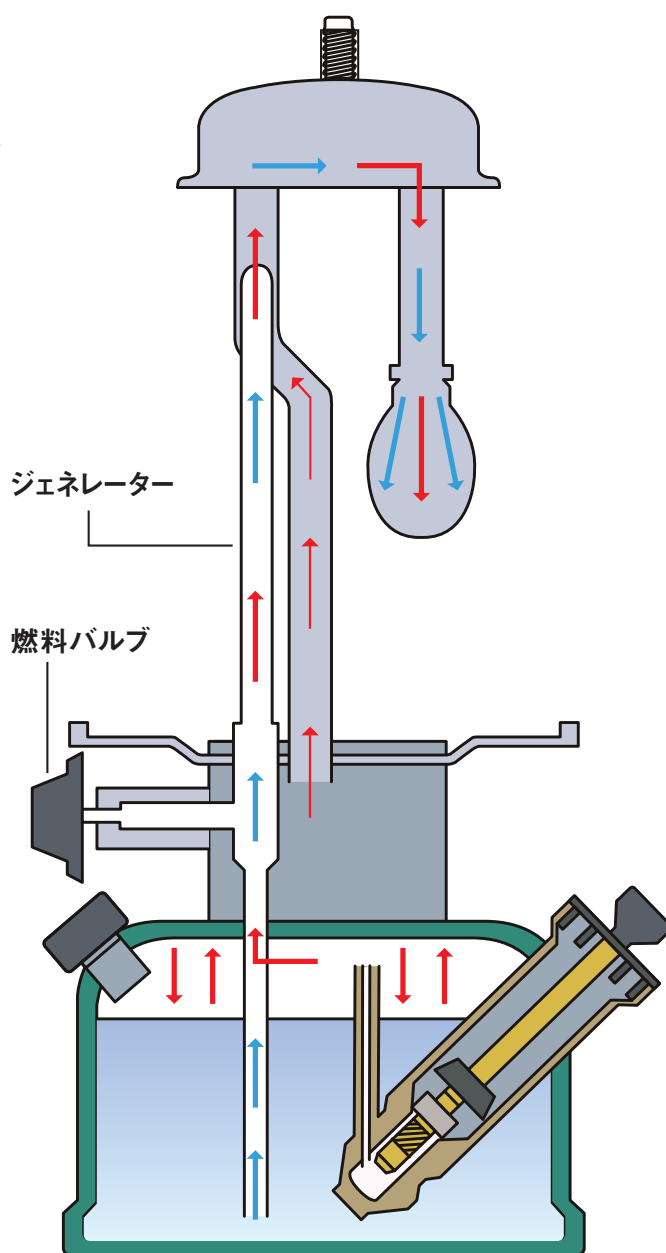
1. ポンピング

ポンプノブを動かしポンピングすることで、燃料タンク内に十分な空気圧を加えます。



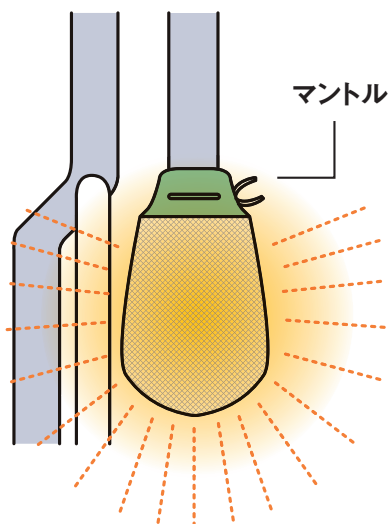
2. 燃料バルブの開放

ポンピングによって燃料タンク内の圧力を高めた状態で燃料バルブを開くと、タンク内で圧縮された空気とガソリンが霧状になってジェネレーター内に送られます。



3. 点火

マントルに火を近づけると燃料に点火されます。この燃える熱でジェネレーター内を通る燃料が気化。空気と気化された燃料が混合し、すすの出ないクリーンな炎で燃焼します。



← 燃料

← 空気

■給油について

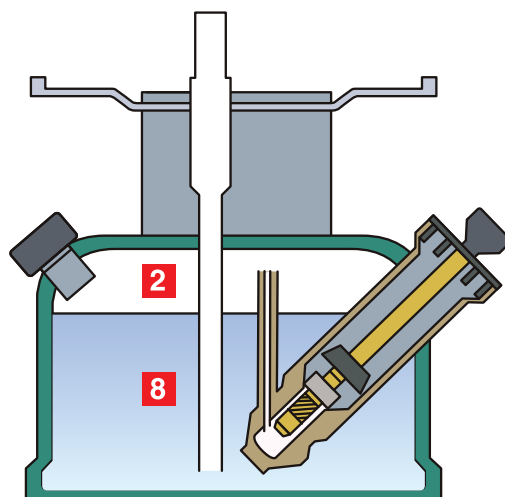
ガソリンタイプの燃焼器具は、ポンピングによりタンク内に空気圧を加える必要があります。効率よく燃焼させる給油の目安は、燃料タンクを水平に置いた状態でタンクの8分目が適量です。適量を量るには、「給油用アクセサリー」が必要です。

燃料が多すぎる

加圧するスペースがないため、液体のままのガソリンが放出されます。メラメラと赤い炎で燃え続ける状態になります。

燃料が少なすぎる

燃料に対して空気の量が多くなるため、ランタンの息つき（点滅状態）、バーナーの炎飛びの原因になります。



空気 **2** : **8** 燃料

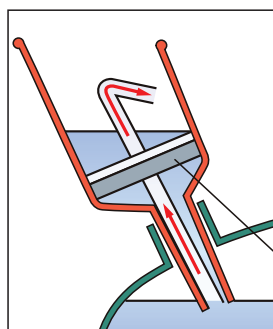
最適なタンク内バランス / 空気 : 燃料 = 2 : 8

■給油用アクセサリーについて

燃料タンク内の「空気 : 燃料」の最適なバランスを整えるために、コールマンは2種類の給油用アクセサリーをラインナップしています。

1. フューエルファネル

ゴミを取り除く特殊フィルターを装備したじょうごです。燃料を流し込む口と、タンク内の空気を抜く通り道があり、図のようにフューエルファネルの先端が燃料に触れると空気が遮断され給油が停止します。ちょうど適量になっています。

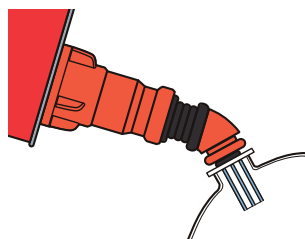


特殊フィルター

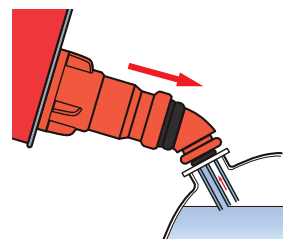
ファネル内に残っているガソリンは、ファネルをゆっくりと抜き、タンク内に流し込みます。

2. ガソリンフィルター

純正ホワイトガソリン缶にねじ込んでセットできる給油用アクセサリーです。スプリング弁があり、給油口に差し込み押し付けることで給油が開始されます。またフューエルファネルと同様に空気を抜く通り道があり、ガソリンフィルターの先端がタンク内の液面に触れると、給油が自動で停止します。



あらかじめガソリン缶にフィルターをセットし、燃料タンクの給油口に差し込む。※弁があるため差し込むだけでは給油がスタートしません。

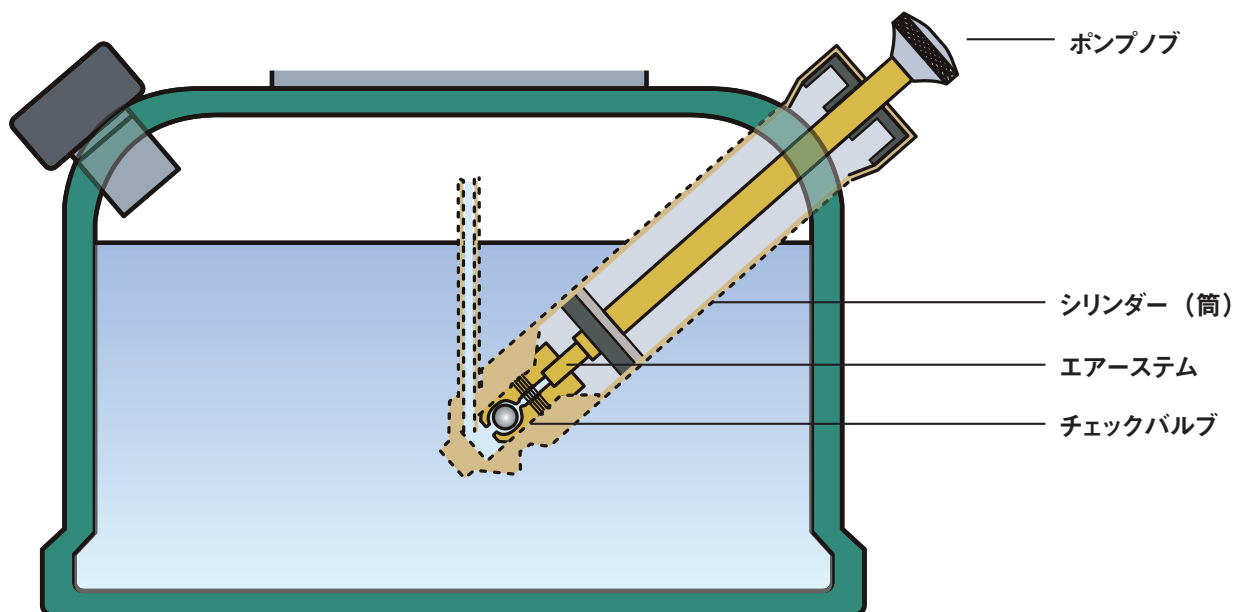


差し込み口に向かってガソリンフィルターを押し込み、給油をスタートします。満タンになると自動で給油がストップするので、それまで押し込み続けてください。

ガソリン燃焼器具の基本知識

正しいポンピングの手順

ガソリン燃焼器具の使用には、ポンピングが必要不可欠です。
安全で確実なポンピング方法を覚えておきましょう。



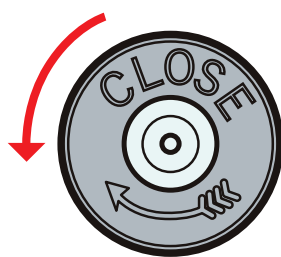
1. 燃料バルブはOFFに



燃料バルブを右に回して「OFF」の位置にセットする。

2. ポンプノブを開いて、ノブをつまむ

左 OPEN



ポンプノブを左に2回転させる。
これにより、エアーステムとチェックバルブの間に空気が通るすき間が生まれる。親指でポンプノブの中央の穴を押さえ、人差し指と中指を添える。

チェックバルブって何？

P.7へ

3. ポンピングを行う



穴を押さえた状態のまま、ポンプノブを手前に引いた後、奥まで真っすぐに押し込む。この動作をくり返します。押し込む時に空気が入ります。手前に引く時には、力を入れないでください。

4. ポンプノブを閉じる

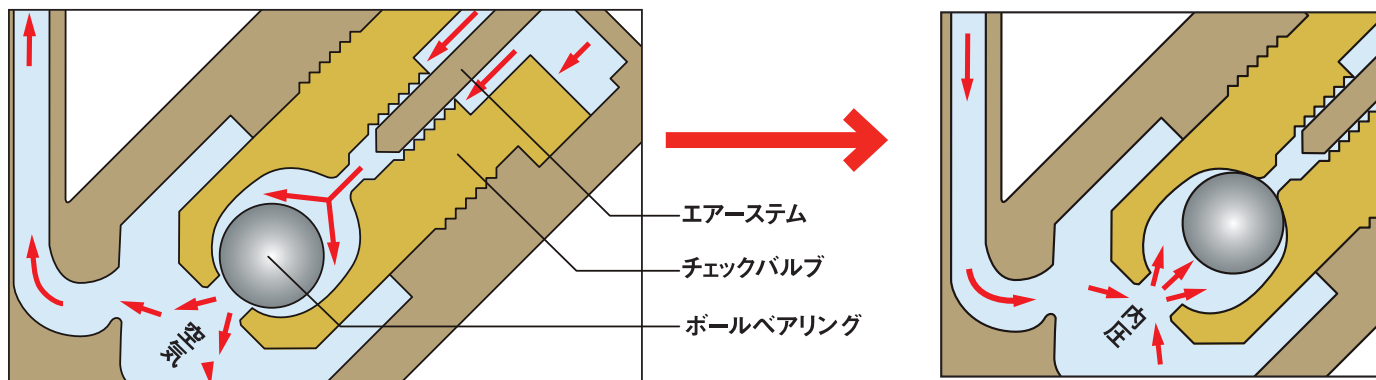
右 CLOSE



ノブが押し込めなくなるくらいまで固くなったら、穴から指をはずし、押し込んで右に回転が止まるまで回してバルブを閉じる。

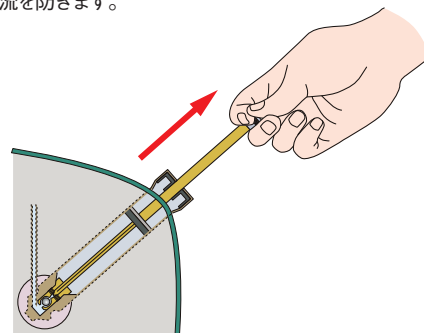
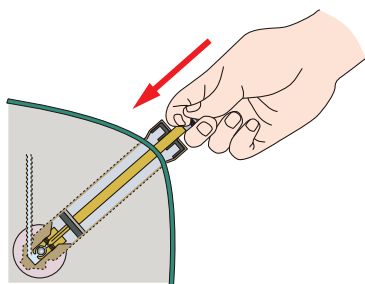
■ チェックバルブの構造

シリンダーの奥には、「チェックバルブ」という弁が取り付けられています。この弁は内蔵したボールベアリングで空気や燃料の逆流を防ぎます。



ポンプノブを左に2回転すると、エアーステムがチェックバルブから解放されます。ポンプカップで圧縮された空気は、チェックバルブのねじ山とエアーステムのすき間を通り、タンク内に送り込まれます。

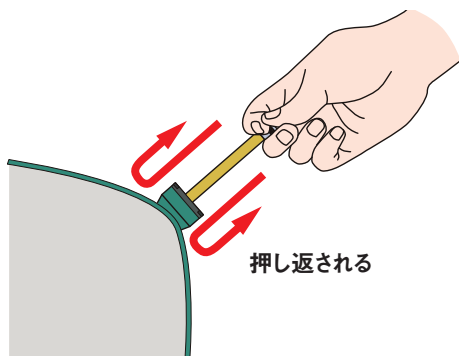
タンク内の圧力が高くなればチェックバルブのボールベアリングが内圧で押し上げられ、空気や燃料の逆流を防ぎます。



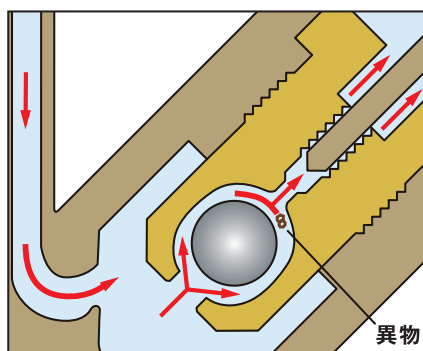
!! チェックバルブのトラブルシューティング

ポンプノブが押し返される

燃料の逆流



ボールベアリングが汚れなどにより固着していることが考えられます。



空気圧がかからない、もしくは燃料が逆流する場合は、チェックバルブにゴミや砂などの異物が付着していることが考えられます。



ポンプノブの先端に火種を近づけ炎が上がる場合は、タンク内で気化した燃料が逆流しています。



P.23へ

チェックバルブをメンテナンスすると、これらの問題は解消します。メンテナンス方法は23ページを参照ください。

「ワンマントルランタン」の使い方

■「ワンマントルランタン」の各部の名称と役割



■ランタンの点火準備から消火まで

1. 燃料を注入する



給油の方法については、5ページを参照してください。

2. ポンピングを行う



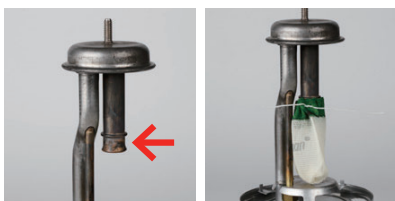
カラヤキ後のマンテルは非常にもろく、ポンピングの衝撃で破損する恐れがありますので、マンテルを取り付ける前に、ポンピングを十分に行ってください。※ポンピングの方法については、6ページを参照してください。

3. マントルの取り付け方法

● 21A 型の取り付け方法



1. マントルについているひもを2重に仮結びする。



2. バーナーチューブ先端の溝に取り付けて、ひもを引いてマンテルを固定する。



3. マントルにしわがよらないよう、ふくらませるように整える。



4. 余ったひもを切り取る。

● 21A 型インスタクリップの取り付け方法



1. バーナーチューブ先端の溝に取り付ける。



2. マントルにしわがよらないよう、ふくらませるように整える。



3. クリップのプラスチック部分を引き抜く。

4. マントルのカラヤキ

取り付けしたマンテルは、点火する前に燃料を出さずに燃やし、灰状にします。これをカラヤキといいます。



1. ライターなどの火を近づけて、下部からまんべんなくマンテルを燃やす。均一に火を入れないと、明かりムラの原因になるので注意。※カラヤキするとマンテルは小さく縮む。



2. すべてが白く灰状になればカラヤキの終了。※この状態のマンテルは、触れただけでも破れるほど壊れやすいので、取り扱いには注意。

5. 点火



1. 柄の長いライターなどの火種を近づけてから、燃料バルブを左に回して開く。



2. マントルに火が移ったら、追加でポンピングを行う。

6. 消火



燃料バルブをOFFにする。ジェネレーター内の燃料が尽きるまで、数分燃え続ける場合があります。

「ノーススター[®] チューブマントルランタン」の

■「ノーススター[®] チューブマントルランタン」の各部の名称と役割



使い方

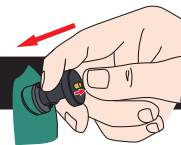
■「ノーススター® チューブマントルランタン」の点火準備から消火まで

1. 燃料を注入する



給油の方法については、5ページを参照してください。

2. ポンピングを行う



ノーススターの場合、ポンピングによって空気が高くなると、ノブの中心にあるプレッシャーインジケーターが出てきます。ノブが押し込めなくなるくらい固くなるまでポンピングを続けてください。

カラヤキ後のマントルは非常にもろく、ポンピングの衝撃で破損する恐れがありますので、マントルを取り付ける前に、ポンピングを十分に行ってください。

3. マントルの取り付け方法 (95型)

ノーススターには上下をクリップで止める、専用のマントル「95型」をご使用ください。



1.バーナーチューブ先端の溝と、その下の溝にマントルを取り付けて固定する。



2. マントルにしわがよらないよう、ふくらませるように整える。取り付ける際は、緑のラインがねじれないようにする。



緑のラインがねじれていると、マントル破損の原因になります。真っすぐになるように整えて取り付けてください。

4. マントルのカラヤキ

取り付けしたマントルは、点火する前に燃料を出さないで燃やし、灰状にします。これをカラヤキといいます。



1.ライターなどの火を近づけて、まんべんなくマントルを燃やします。均一に火を入れないと、明かりムラの原因になるので注意。※カラヤキするとマントルは小さく縮む。



2.すべてが白く灰状になればカラヤキの終了。※この状態のマントルは、触れただけでも破れるほど壊れやすいので、取り扱いには注意。

5. 点火



1.必ず点火ボタンを押し続けながら、燃料バルブを左に回して開く。マントルに火が移ったら、追加でポンピングを行う。



点火ボタンは燃料バルブの背面に装備されている。

6. 消火



燃料バルブをOFFにする。ジェネレーター内の燃料が尽きるまで、数分燃え続ける場合があります。

「413H パワーハウス[®] ツーバーナーストーブ」

■ 「413H パワーハウス[®] ツーバーナーストーブ」の各部の名称と役割



の使い方

■「413H パワーハウス[®] ツーバーナーストーブ」の 点火準備から消火まで

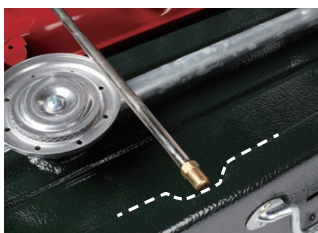
1. 燃料タンクを取り出す



1. グレートを持ち上げる。



2. ジェネレーター先端を本体の凹部分から外して燃料タンクを取り出す。



2. 燃料の注入とポンピング



純正のアクセサリなどを使用し、燃料タンクの8分目まで給油。その後、手順通りにポンピングを行ってください。※給油の方法については5ページを、ポンピングについては6ページを参照してください。



3. 燃料タンクの取り付け



本体の取り付け穴に、燃料タンクのフックを差し込んで固定する。

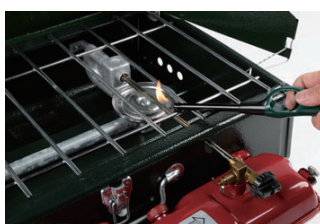


ジェネレーターの先端は、ミキシング部にしっかりと差し込む。

4. メインバーナーへの点火



1. 点火レバーを上向きにセットする。



2. 柄の長いライターなどの火種を先にメインバーナーに近づけてから、燃料バルブを開ける。左に1～2回転させると点火する。点火直後、すぐにノブが固くなるまで、十分にポンピングを行う。



3. 点火直後の赤い炎から正常な青白い炎に安定したら、点火レバーを下向きにする。火力の調節は燃料バルブで行う。



5. サブバーナーへの点火

サブバーナー単独での使用はできません。メインバーナーへ点火し、炎が安定した後に点火してください。



メインバーナーと同様に、火種を先に近づけてから、サブバーナー用燃料バルブを左に回して開く。※サブバーナーはメインバーナーに比べて、火力が弱めです。用途によって使いわけてください。

6. 消火



(サブバーナーを使用した場合は)サブバーナー、メインバーナーの順に消火。それぞれの燃料バルブを右に回して消火する。ジェネレーター内の燃料が尽きるまで、数分燃え続ける場合があります。※使用中および消火直後のストーブは、熱くて危険です。十分に冷めたことを確認したうえで、収納などを行ってください。

「スポーツスター[®] II」の使い方

■「スポーツスター[®] II」の各部の名称と役割



■「スポーツスター® II」の点火準備から消火まで

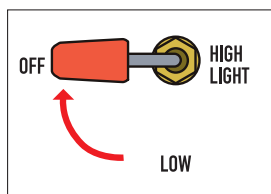
1. 燃料の注入



純正のアクセサリなどを使用し、燃料タンクの8分目まで給油を行う。※給油の方法については5ページを参照してください。

P.5へ

2. ポンピング



1. 燃料レバーを「OFF」にセットする。



2. ポンプノブを左に2回転させる。穴を押さえた状態のまま、ポンプノブを手前に引いた後、奥まで真っすぐに押し込む。この動作をくり返します。親指でポンプノブの中央の穴を押さえ、人差し指と中指を添える。※ポンピングの方法については、6ページを参照してください。



P.6へ

3. バーナーへの点火



1. 燃料レバーが「OFF」の状態を確認後、柄の長いライターなどの火種をバーナーに近づける。



2. 燃料レバーを「HIGH/LIGHT」に戻すと点火する。

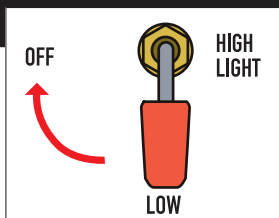


3. 点火直後は安定していない赤い炎の状態なので、固くなるまで十分にポンピングを行う。



4. 青白い炎になったら、安定した正常な状態。火力は、燃料レバーを操作することで調節できる。

4. 消火



燃料レバーをOFFにする。ジェネレーター内の燃料が尽きるまで、数分燃え続ける場合があります。※使用中および消火直後のストーブは、熱くて危険です。十分に冷めたことを確認したうえで、収納などを行ってください。

よくある質問 ▶ 「ホワイトガソリン全般」編

ここではホワイトガソリン及び、それを使用する器具についてのQ&Aをまとめています。

Q1. 燃料を入れたまま燃焼器具を移動しても大丈夫ですか？

A1. 空気圧を抜き、燃料バルブ、ポンプノブ、燃料キャップがそれぞれ閉められた状態であれば、燃料を入れたまま移動しても大丈夫です。ただし、移動中にそれぞれのバルブが開かないように注意してください。

ワンポイント！

右の写真のように、燃料キャップの上ぶたを水平にして徐々に緩めると燃料が吹き出しにくくなります。



Q2. コールマン製品以外のホワイトガソリンを使用しても問題はありませんか？

A2. 燃焼器具の性能を最大限に発揮するためにも、コールマン純正ホワイトガソリンのご使用をお願いします。純正以外のホワイトガソリンを使用すると、不完全燃焼や異常燃焼によりパーツが破損する場合があります。また、PL保険の対象外となる場合があります。
※純正ホワイトガソリンとそれ以外のホワイトガソリンの違いについては、3ページを参照してください。

P.3へ



Q3. タンク内に燃料を入れたまま保管しても大丈夫ですか？

A3. 短期間であればとくに問題はありませんが、タンク内の結露による錆や万一の燃料漏れを避けるため、できるだけあまった燃料は抜き取るか、使い切ることをおすすめしています。燃料の抜き取りには「残ガソリン抜き取りポンプ」を使用すると便利です。

Q4. ガソリンの抜き取り方法を教えてください

A4. 長期保管する場合は、燃料を完全に使い切ってから保管してください。もし使い切れない場合は「残ガソリン抜き取りポンプ」を使うと便利です。



金属が取り付けられたほうを燃料タンクに差し込み、圧が漏れないように固定します。



もう一方はガソリン缶に差し込みます。

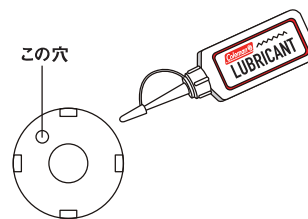


ポンピングの正しい手順でポンピングを行うと、燃料タンク内のガソリンが押し出され、ガソリン缶に注入されます。

Q5. いくらポンピングしても手応えがなく、空気圧が入りません

A5. 2つの点を確認してください。ポンプノブの穴を押さえてポンピングしていますか？ ポンプノブの穴を押さえないと、その穴から空気が逃げて、タンク内に圧力がかかりません。必ずノブの穴を親指で押さえ、中指と人差し指を添えて正しくポンピングしてください。

またはポンププランジャー先端のポンプカップが乾燥していたり、摩耗していたりしませんか？ ポンプカップが乾燥していると隙間から空気が漏れて、タンク内に入りません。ポンプカップ専用の特殊オイル、『リユブリカント』をポンプカップの穴に2～3滴注入してください。ポンプカップが破損していると、リユブリカントを注入しても効果はありません。交換してください。※ポンピングの方法は6ページで紹介しています。ポンプカップに関しては、22～23ページを参照してください。



P.6へ

P.22～23へ

Q6. ポンプノブを強く引きすぎて抜けてしまいました

A6. はずれたポンプノブは、簡単に直せます。スーパーレンヂでポンプキャップをはずし、抜け落ちた各部品を取り出して順番にセットし、最後にプッシュオンナットで止めます。タンクに戻すときは、リユブリカント（ポンプカップ専用特殊オイル）をポンプカップに直接2～3滴注油してください。

※組み立て方法については、22ページを参照してください。



P.22へ

Q7. ポンピングしようとして、ポンプノブを押しても、抵抗があってポンピングできません

A7. ノブを左に2回転させましたか？ ポンプノブを左に回すことで、空気の入り口となるチェックバルブが開きます。入り口を開けないと空気が入りません。もう一度正しい手順で試みてください。

※ポンピングの方法は6～7ページで紹介しています。そちらもご覧ください。

P.6～7へ

Q8. ポンプノブが左に回らないのはなぜですか？

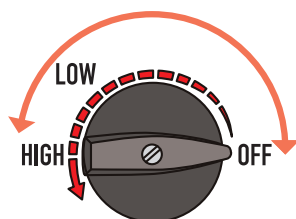
A8. 2つの原因が考えられます。とくに新品購入時は製造ラインで固く締められている場合があります。その場合は、プライヤーなどでポンプノブをはさんで左に回してください。それでも解決しない場合は、ポンプキャップをはずして中にあるエアーステムをチェックしてください。エアーステムが曲がっているとポンプノブはスムーズに動きません。その場合は、エアーステムを左に10回転以上回して取りはずし、まっすぐにしてから組み立て、もう一度正しい手順で試みてください。※ポンプキャップ、エアーステムのメンテナンス方法については、22ページを参照してください。

P.22へ

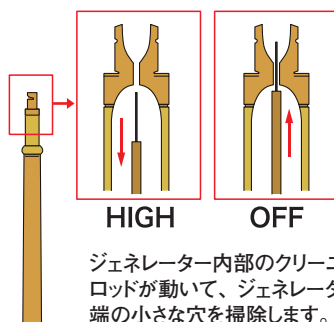
よくある質問 ▶ 「ランタン」編

Q1. ジェネレーターを長持ちさせるコツはありますか？

A1. 消火前に燃料バルブの「ON ↔ OFF」を2～3回往復させると、ジェネレーター内のクリーニングロッドが上下します。これによりジェネレーター先端の小さな穴が掃除され、ススが溜まりにくくなります。



消火する前に、燃料バルブを素早く2～3回往復させる。



ジェネレーター内部のクリーニングロッドが動いて、ジェネレーター先端の小さな穴を掃除します。

Q2. ランタンのジェネレーターの交換目安は？

A2. 点火しにくい、これまでよりも光量が弱い、火力調節がうまくいかない。このような場合は、ジェネレーター交換を行ってください。

※交換の方法は、ワンマンテルランタンは25ページへ、ノーススターチューブマンテルランタンは27ページを参照してください。

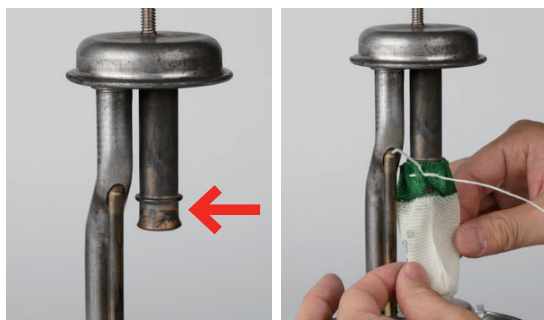


P.25, 27へ

Q3. 上手にマンテルを取り付けるには、どうしたらいいですか？

A3. しわが均一になるように整え、正しい位置に取り付けるのがポイントです。※正しい取り付け方法は、9ページ、11ページを参照してください。

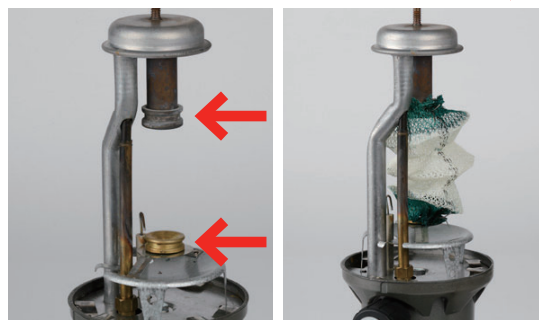
21A 型



バーナーチューブの先端にある溝にはめ込みます。

ひもタイプの場合、しっかりと2重にして固定。その後、しわにならないように広げます。

95 型 (ノーススター用)



上下に固定する95型 (ノーススター用)も同様です。上下にある溝にはめ込むようにマンテルを取り付けます。

ラインがねじれないよう、真っすぐにセット。



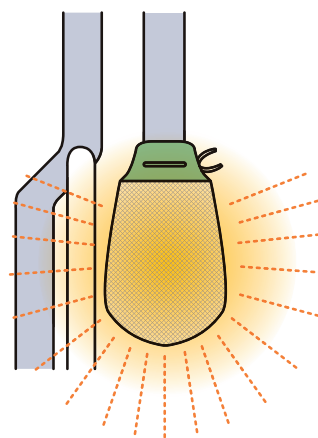
ワンポイント!

溝の上段に取り付けると、マンテルの発光面積が小さくなり、光量の低下や異常燃焼の原因になります。

P.9, 11へ

Q4. 長期間、同じマントルを使っていますが、いつ取り換えればよいのでしょうか？

A4. 破れるまで使用できます。点火したマントルは、強度が高まり、丸みを帯びた形状を保ちます。点火する際にライターなどで触ったり、強い衝撃を与えたりしない限り破れません。破れたり穴が空いていると、そこから炎が出て、器具やガラスグローブなどの破損の原因となります。破れがあれば交換しましょう。



カラヤキ直後はとくに壊れやすい!

マントルはカラヤキ後に点火することで強度が高まりますが、カラヤキ後のマントルは指で触れただけでも簡単に破損します。取り扱いに注意すると同時に、常に予備のマントルをご準備ください。

Q5. ぶつけていないのにグローブ（ガラス）が割れてしまいました。原因は何？

A5. 外的な衝撃以外では、マントルに穴が開き、そこから炎が漏れることでグローブが破損する場合があります。グローブが白く濁ったように変色した場合は、マントルの交換をお願いします。



マントルに穴が開いていたら、すぐに交換してください。

よくある質問 ▶ 「ストーブ」編

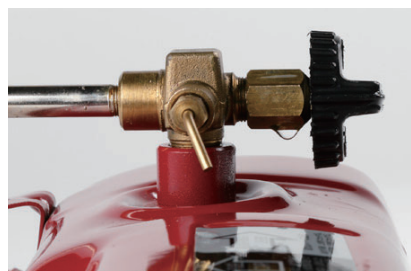
Q1. 燃料バルブの根元から燃料が漏れるのですが、
どうしたらよいでしょうか？

A1. 燃料バルブの付け根にある六角ナットを増し締めしてください。燃料バルブの動きも固くなりますが、たいていの漏れは直ります。これ以上増し締めできない、もしくは増し締めしても漏れが止まらない場合は、バルブ一式の交換が必要です。交換はサービスセンターへ修理を依頼してください。

ワンマントルランタン



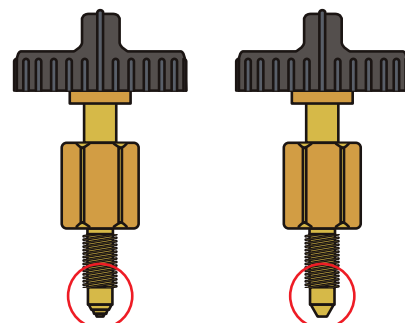
ツーバーナーストーブ



燃料バルブの根元にある六角ナットをスーパーレンチなどで増し締めします。ただし、締めすぎるとバルブが回らなくなります。その際は燃料が漏れない範囲で、六角ナットを少し緩めます。
※バルブシステムを締める方法については、24ページを参照してください。

P.24へ

燃料が止まらない、
いつまでも炎が消えないとき



磨耗した状態

正常な状態

バルブシステムの摩耗について

イラストのようにバルブシステムの先端が摩耗すると、燃料を完全に止めることができなくなります。

※ツーバーナーの場合、バルブを閉めてもジェネレーター内の燃料が完全に燃焼するまでに、長いもので5分ほどかかります。

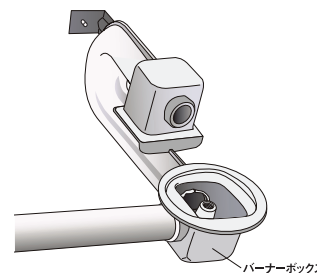
Q2. 点火しましたが、いつまでも赤い炎で燃え、
安定した炎になりません。 どうしたらよいでしょう？

A2. 原因は2つ考えられます。タンク内の圧力不足の可能性があるので、一旦火を消して十分にポンピングを行ってください。

もうひとつは気化していない液状のままの燃料が、バーナー部分にたまっている可能性が考えられます。一旦火を消し、本体を逆さまにして、バーナー下部に溜まっているガソリンを取り除いてください（ツーバーナーの場合はタンクを取り外します）。再点火する場合は、火種を近づけてから燃料バルブを少しずつ左に回し、炎が安定するまで燃料の噴出を最小限に抑えておきながら点火してください。燃料を出し過ぎると、再びバーナー部の下に溜まる可能性があります。



ツーバーナー本体のバーナー下に燃料が溜まっている可能性もありますので、燃料を取り除いてください。



バーナーボックス

Q3. 点火レバーはどのような役割を果たしているのですか？

A3. バイクのチョークに似ています。ガソリンの濃さを変えて送りこみ、エンジンをかかりやすくするのがチョークです。同様にジェネレーター内で燃料を気化しやすくするため、薄めの燃料を送り込むのが点火レバーです。



点火するときには上向きにし、炎が安定したら下向きにします。※ツーパーナーの点火方法は13ページを参照ください。

P.13へ

Q4. ミキシング部から炎が漏れるのですが、どうしたらよいでしょうか？

A4. ジェネレーターが完全にミキシング部に挿入されていないかもしれません。原因としては、ジェネレーターが燃料タンクから直角に出ていないことが考えられるので、そのときには直角になるように調整してください。

また燃料タンクを取り付けるツメの位置によっても、きちんと挿入できなくなることもありますので、ツメの角度を調整してもいいかもしれません。

ジェネレーター先端についている六角ナットがゆるんでいる可能性も考えられます。ナットを締めても直らない場合は、ジェネレーターを交換してください。交換の方法は29ページを参照してください。

P.29へ



本体に取り付ける燃料タンクの角度によっても、ジェネレーター先端から炎が出ることもあります。取り付け角度を調整しましょう。



ジェネレーター先端のナットがゆるんでいる場合もありますので、スーパーレンチなどを使用して締め直しましょう。

Q5. ストープのジェネレーターは、どのようなときに交換しますか？

A5. 点火しにくい、完全燃焼しない、いつもよりも火力が弱くなった、火力調整ができない。このような場合にはジェネレーターを交換してください。



ツーパーナーのジェネレーター交換の方法は、29ページを参照してください。

P.29へ



シングルバーナーのジェネレーター交換の方法は、30ページを参照してください。

P.30へ

メンテナンス

■メンテナンスに必要な工具

※のアイテムの詳細は31ページを参照ください。

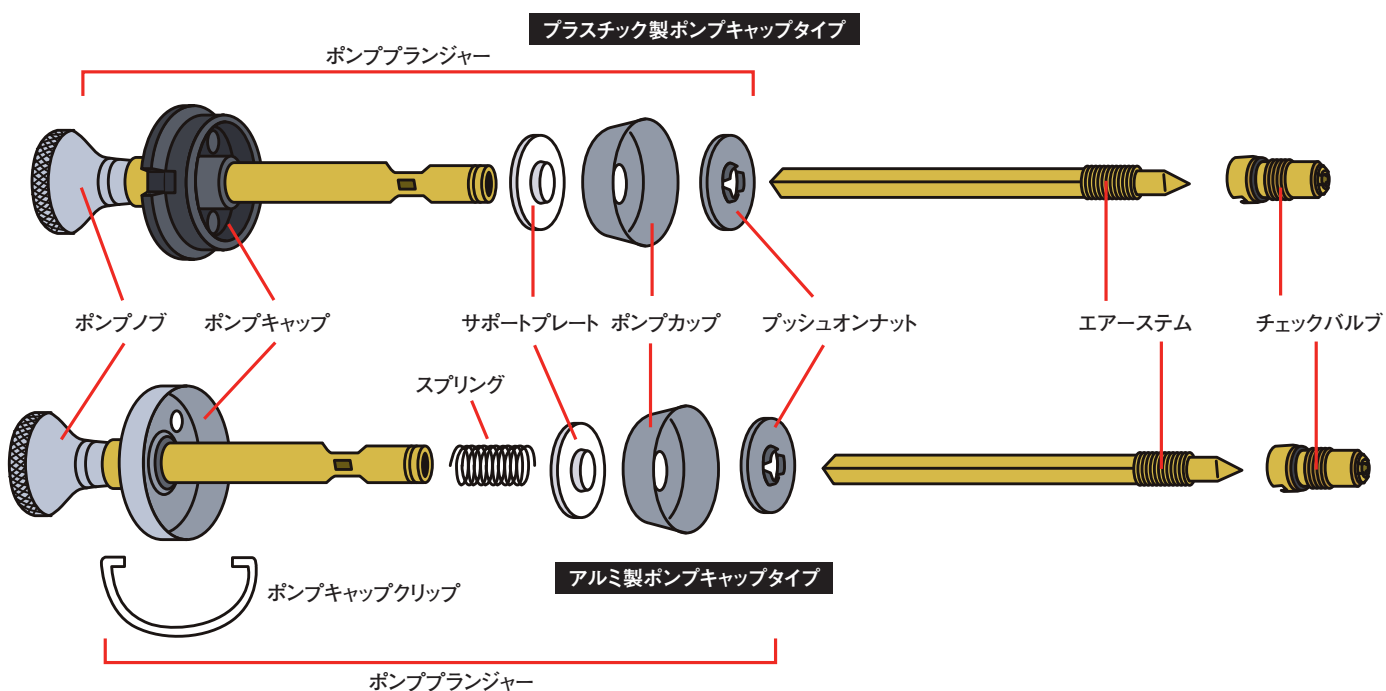
P.31へ

- ・純正品：スーパーレンチ（※）、リユベリカント（※）、チェックバルブレンチ（※）
- ・既製品：ラジオペンチ、プライヤー、プラスチックハンマー

■ポンププランジャー一式のメンテナンス

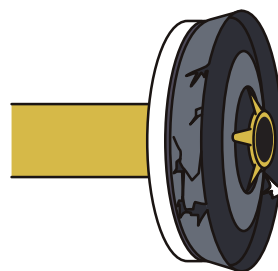
ここでは「ワンマントルランタン」「413Hパワーハウスツバーナーストーブ」「スポーツスターⅡ」に共通して使われる、ポンププランジャー一式のメンテナンスを紹介します。

ポンププランジャー一式の各部名称



ポンプカップの点検

軽くポンピング操作を行って、ポンプノブの抵抗感をチェックします。引っかかるような感じやスカスカと抵抗力がない場合は、ポンプカップが乾燥しているのでリユベリカント（ポンプカップ専用特殊オイル）をポンプキャップの「OIL」と表示のある穴から2～3滴注入します。それでも改善しない、もしくは圧が抜ける場合は、図のように破損している可能性があります。その際は次ページの手順に従って交換しましょう。




ポンプカップが図のように破損していると、燃料タンク内に空気を送り込むことができません。異常を感じたら、ポンプカップの点検、もしくは交換をお願いします。




リユベリカントはポンプキャップの「OIL」マークの隣にある穴から2～3滴ほど注入してください。

ポンプカップの交換

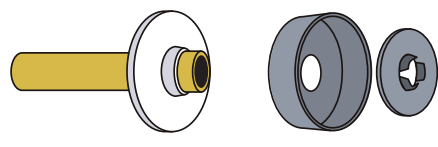
- 1**



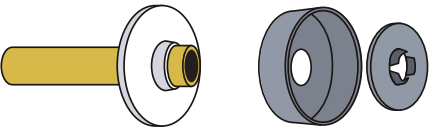
ポンプノブを左に10回転以上させ、チェックバルブからエアーステムを外す。
- 2**



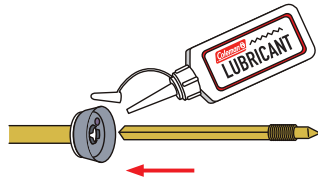
スーパーレンチを使用して、ポンプキャップを左に回転させて緩めたら、ポンププランジャー式を抜き取る。
- 3**




プッシュオンナットを外し、ポンプカップを取り除く。
- 4**



新しいポンプカップをプッシュオンナットでポンプノブ先端に固定する。プッシュオンナットを「パチッ」と音がするまで、しっかり押し込む。
- 5**



ポンプカップにリユベリカントをつけ、エアーステムをポンププランジャーに入れる。
- 6**



ポンプキャップをセットし、スーパーレンチで右に回しロックする。ポンプノブを右に回転しなくなるまで回して完了。

エアーステムの点検

ポンプカップの点検時にエアーステムも点検して、曲がっていた場合はプライヤーなどで曲りを直すか、『エアーステム&チェックバルブ一式』を交換してください。



ポンプノブを真っすぐに押し込まず、斜めにポンピングをした場合、エアーステムが曲がる場合があります。

【チェックバルブのメンテナンス】

※チェックバルブの役割については7ページを参照してください。

P.7へ

1. チェックバルブの点検



手順通りにポンピングを行い、ポンプノブを左に回した「OPEN」の状態ですライターの火をポンプノブの穴に近づけます。チェックバルブに異常があると、ポンプノブの穴から炎が出ます。異常があった場合、チェックバルブを取り外してメンテナンスを行います。

2. チェックバルブの取り外し手順

あらかじめ、タンク内の空気圧は抜いておきます



取り外しの前に、タンク内の空気圧は抜いておきます。①「ポンプカップの交換」の手順通りにポンププランジャー、エアーステムを取り外します。②専用工具「チェックバルブレンチ」を使用し、チェックバルブを緩めます（左に回す）。固い場合は、写真のようにプラスチックハンマーでたたいて緩めます。



チェックバルブレンチを使用しないで、マイナスドライバーなどで無理に緩めようとすると、ねじ山をつぶして修理不能になります。

3. チェックバルブの洗浄



コールマン純正ホワイトガソリンにチェックバルブを浸し、ゴミやグリスなどを洗浄します。



この際にグリスや食用油など、粘度のある油で洗浄するとチェックバルブのボールベアリングが正常に機能しなくなります。ホワイトガソリンは引火しやすいので、火気のない風通しの良いところで行ってください。



4. チェックバルブの交換



矢印の側を口にくわえて、息を吹き込んでください。空気が通らなければ正常ですが、空気が通るようであればボールベアリングに異常があります。新品に交換しましょう。組み立て後は、「1.チェックバルブの点検」を行って、問題がないかを確認してください。

メンテナンス

■バルブシステムの増し締め

通常は燃料が漏れることはありませんが、ナットの締め付けが緩いとバルブから燃料が漏れることがあります。また、長く使用しているとナットが緩み、燃料が漏れる場合もあります。

ワンマントルランタン



バルブから燃料が漏れる場合は、スーパーレンチを使用し増し締めをします。増し締めをしても症状が変わらない場合は、バルブ一式を交換となります。交換はサービスセンターで行います。※20ページを参照ください。

P.20へ

413H パワーハウス[®] ツーバーナーストーブ



バルブから燃料が漏れる場合は、燃料バルブの根元にある六角ナットをスーパーレンチで増し締めします。ただし、締めすぎるとバルブが固くなるので、燃焼バルブを動かしながら行うとバルブの動きが固くなりません。増し締めしても症状が変わらない場合は、バルブ一式を交換となります。交換はサービスセンターで行います。※バルブからの燃料漏れについては、20ページを参照してください。

P.20へ




■ワンマントルランタンのジェネレーター交換

点火しにくい、完全燃焼しない、いつもより火力が弱い、火力調節ができない。

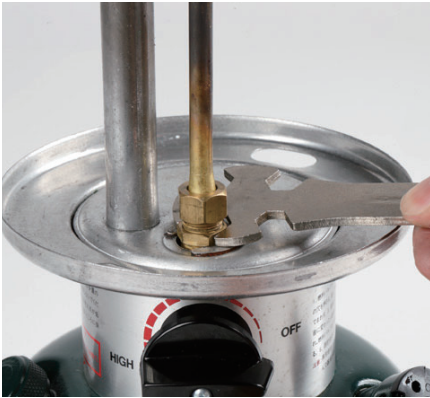
このような場合はジェネレーターを交換します。ジェネレーターは消耗品です。予備のパーツを常備してください。

交換の前に、タンク内の空気圧は抜いておきます。


- 1**




ベンチレーターやガラスグローブを外したら、ヒートシールドを取り外す。
- 2**




スーパーレンチを使用して、フレイムナットを緩める。
- 3**




フレイムナットの下にあるUクリップを取り外す。
- 4**



バーナーアッシーを抜き取る。
- 5**

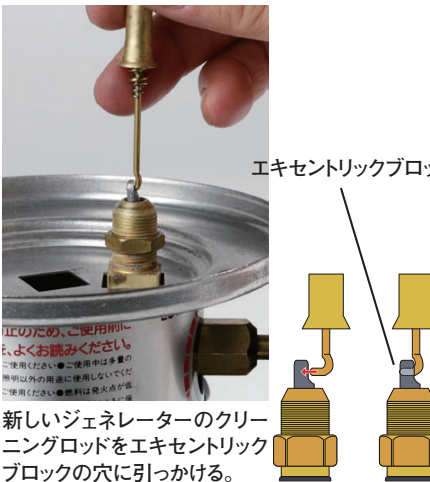


ジャムナットを緩める。
- 6**




クリーニングロッド

ジェネレーターを持ち上げ、クリーニングロッドを外す。
- 7**




エキセントリックブロック

新しいジェネレーターのクリーニングロッドをエキセントリックブロックの穴に引っかける。
- 8**



燃料バルブを「HIGH」へ回し、エキセントリックブロックを下げる。こうすることでクリーニングロッドの針を折らずに取り付けることができる。ジェネレーター本体をゆっくりと降ろし、ジャムナットで固定しバルブをOFFに戻す。
- 9**

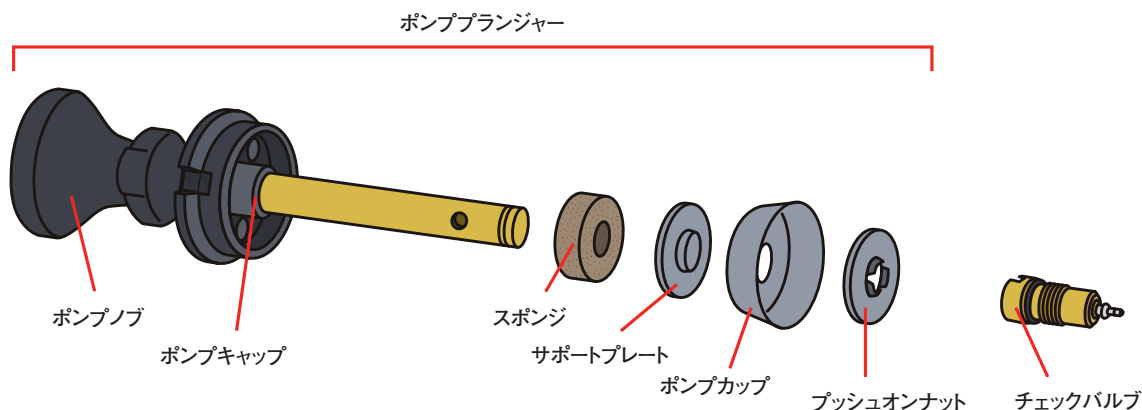


1～5の手順を逆に行い組み立てる。その際、ジェネレーターの先端がバーナーアッシーの穴に入っているか、バーナーアッシーは水平に取り付けられているか注意する。

メンテナンス

■ ノーススター® チューブマントルランタンのメンテナンス

ポンププランジャー一式の各部名称



ポンプカップ外し方



ポンプカップの外し方は、基本的に「ワンマントルランタン」と同様です。スーパーレンチを使用し、ポンプカップを緩めて外します。
※23ページを参照してください。

P.23へ

ノーススター® 用チェックバルブ



専用チェックバルブは、ボールベアリングを使わずスプリングの力で強制的にバルブを閉めています。タンク内に圧力がかかっていない場合でも、燃料の逆流が起きないのでエアーステムはありません。取り外し手順は、従来のもと同様なので、23ページを参照してください。

P.23へ

イグナイター（自動点火装置）の電池交換

電池は年1回、交換してください。感電する恐れがありますので、交換作業中は赤色の自動点火ボタンを押さないでください。



ボタン上の銀色のレバーを押し下げて本体から外します。



単4アルカリ電池を1本使用します。アルカリ電池以外は使用しないでください。


■ ノーススター® チューブマントルランタンのジェネレーター交換

点火しにくい、完全燃焼しない、いつもより火力が弱い、火力調節ができない。

このような場合はジェネレーターを交換します。ジェネレーターは消耗品です。予備のパーツを常備してください。

交換の前に、タンク内の空気圧は抜いておきます。


- 1**



ベンチレーターやガラスグローブを外したら、ヒートシールドの脚を内側に押して持ち上げ取り外す。
- 2**



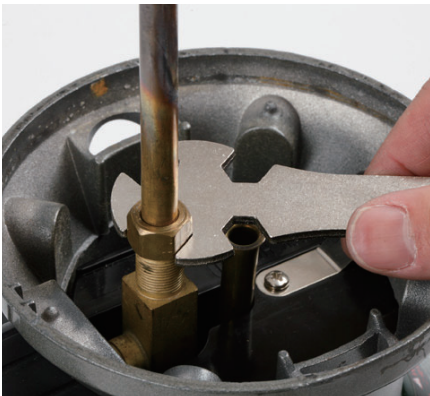
スーパーレンチを使用して、フレームボルトを緩める。
- 3**




フレームボルトを取り外す。
- 4**



バーナーアッシーを抜き取る。
- 5**



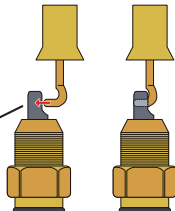
ジャムナットを緩める。
- 6**




ジェネレーターを持ち上げ、クリーニングロッドを外す。
- 7**



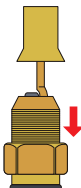
新しいジェネレーターのクリーニングロッドを少しひき出しエキセントリックブロックの穴に引っかける。



エキセントリックブロック
- 8**



燃料バルブを「HIGH」へ回し、エキセントリックブロックを下げる。こうすることでクリーニングロッドの針を折らずに取り付けることができる。ジェネレーター本体をゆっくりと降ろし、ジャムナットで固定しバルブをOFFに戻す。


- 9**

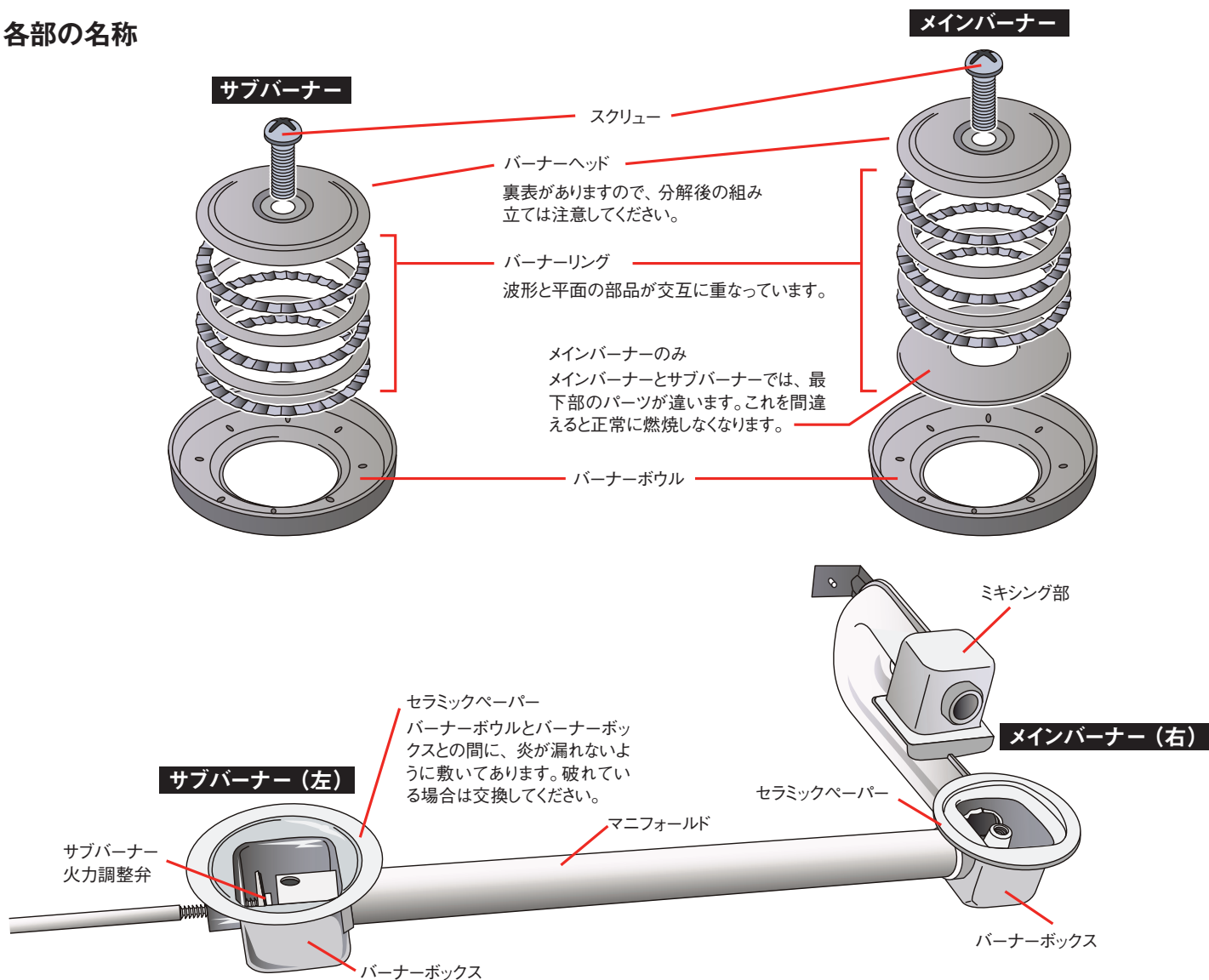


1～5の手順を逆に行い組み立てる。その際、ジェネレーターの先端がバーナーアッシーの穴に入っているか、バーナーアッシーは水平に取り付けられているか注意する。

メンテナンス

■ 413H パワーハウス® ツーバーナーストーブのメンテナンス

各部の名称



バーナー部の分解



普段は表面の汚れをふき取るだけでもOKですが、とくに錆や汚れがひどい場合は、中央のスクリューを外してキレイにします。

バーナーボウルの掃除



バーナー部についた煮汁などのコゲつきや錆は、バーナーリングなどを外して、ワイヤーブラシでこすり落とします。組み立てる際には、バーナーリングの順番をまちがえないように注意してください。

■ 413H パワーハウス[®] ツーバーナーストーブのジェネレーター交換

点火しにくい、完全燃焼しない、いつもより火力が弱い、火力調節ができない。

このような場合はジェネレーターを交換します。ジェネレーターは消耗品です。予備のパーツを常備してください。

交換の前に、タンク内の空気圧は抜いておきます。

1



ジェネレーターチューブをプライヤーで挟み、左に1/4回転させて緩める。

2



ジェネレーターチューブを手で回して抜き取る。

3



内部のニードルをプライヤーで挟み、左に1/4回転させる。

4



ニードルを緩めて抜き取る。1～4を逆の手順で行い、新しいジェネレーターを取り付ければ終了です。締め込みが足りないと、燃料漏れが起こります。また組み立て後、ジェネレーター先端からニードルが飛び出している場合は、ニードルの締め込み不足です。



新しいジェネレーターを取り付ける際、プライヤーで挟むと傷がつくことがあります。あらかじめご了承ください。

ミキシング部の炎漏れの修理



写真のように、ジェネレーター先端を差し込むミキシング部から炎が漏れることがあります。ジェネレーター先端の緩みなどの原因が考えられます。



先端がゆるんでいる場合は、スーパーレンチを使用し、締めこんでください。またそれ以外の原因として、取り付け角度の問題なども考えられます。詳細につきましては21ページを参照してください。

P.21へ

メンテナンス

■スポーツスター® IIのメンテナンス／ジェネレーター交換

点火しにくい、完全燃焼しない、いつもより火力が弱い、火力調節ができない。

このような場合はジェネレーターを交換します。ジェネレーターは消耗品です。予備のパーツを常備してください。

交換の前に、タンク内の空気圧は抜いておきます。

1



ジェネレーターの固定金具をプラスドライバーで外す。

2



スーパーレンチを使ってジャムナットを緩める。

3



ジェネレーターを持ち上げる。クリーニングロッドを引き出すが、出し過ぎると元に戻らなくなるので注意する。

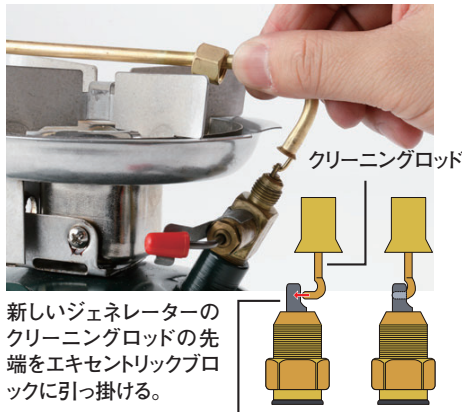
4



ジェネレーター本体を、横にずらしながら外す。

取り外す際、裏側のジェネレーター先端部分が引っかかることがあるので注意する。

5



新しいジェネレーターのクリーニングロッドの先端をエキセントリックブロックに引っ掛ける。

エキセントリックブロック

6



燃料バルブを「HIGH」に回してクリーニングロッドを一旦下げ、ジャムナットを仮留めする。裏側の差込口にジェネレーター先端を差し込む。ジャムナットを締め込み、固定金具で固定する。

■バーナーボックスからの燃料漏れを止める

燃料漏れの原因

- ① 火種を近づける前にバルブを開けて、燃料を出しすぎたため
- ② 立ち消えたままで、燃料が出続けたため
- ③ バルブの故障などにより、燃料が出続けたため



バーナーボックス内に、燃料の気化を促進するセラミックファイバーがあります。そこに燃焼し切れない燃料が残っているとき、バーナーボックスから燃料が漏れてくる場合があります。



上のジェネレーター交換手順に従って、バーナーボックスをタンクから取り外す。



取り外し後、内部のセラミックファイバーに直接火をつけ、余分な燃料を燃焼させる。もし、セラミックファイバーに不純物が付着して硬化していた場合は、取り外してホワイトガソリンで洗浄する。※溜まった燃料の量によって、炎や煙が出る場合があります。安全な場所で作業してください。

コールマン ランタン/ストーブのアクセサリー

ガソリン注入アクセサリー



フューエルファネル 2000016489

ホワイトガソリン缶に入ったゴミなどを取り除く特殊フィルター付き
じょうご。空気抜きがあるのでガソリンの注入がスムーズに行えま
す。満タン（8分目）になると給油が止まります。



ガソリンフィルターII 170-7099

コールマン純正ホワイトガソリン缶専用のアタッチメント。ガソリン
の流れをよくする空気抜きがあるので、無駄なくガソリンが入れら
れます。先端を注入口に入れ、押し込むと注入されます。満タン（8
分目）になると給油が止まります。

残ガソリン抜き用アクセサリー



残ガソリン抜き取りポンプ 170-7043

燃料タンク内の余ったガソリンを抜き取るポンプ。ポンピングの力
をそのまま利用して、余ったガソリンをガソリン缶に戻せます。

ポンピング用アクセサリー



スーパーポンピング 170-7042

力が入れやすくポンピング作業を楽にする専用のサポート器具です。

メンテナンス用アクセサリー



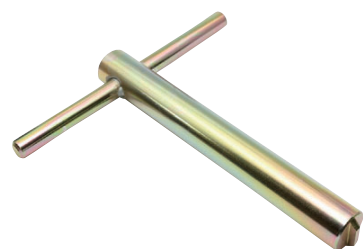
リュブリカント 149A5361

ポンピング時の動きをスムーズにする
ポンプカップ専用特殊オイル。



スーパーレンチ 149A9505

これ1本でコールマンのランタン/ストーブに
対応するマルチレンチ。



チェックバルブレンチ 413-9401

チェックバルブを取り外す専用工具。
※一部店舗のみの取り扱いです。



The Outdoor Company™

コールマン ジャパン株式会社
〒108-0023
東京都港区芝浦4-9-25
芝浦スクエアビル

修理に関して

製品の修理をご希望の方は
お近くのコールマン製品取扱店までお持ち込みください。
また、サービスセンターでの直送修理も承っております。



<http://www.coleman.co.jp/customersupport/repair/>

コールマン 修理

検索



Coleman Online

PC・スマートフォン共通
アウトドアのヒントやアイデアが満載。
<http://www.coleman.co.jp/>



Coleman How to Movie Page

コールマン製品の使い方、メンテナンス方法の
動画を見る事ができます。
<http://www.coleman.co.jp/customersupport/howtomovie/>

問題が解決しなかった場合、こちらにご連絡ください。

問：コールマン ジャパン株式会社 カスタマーサービス

お問い合わせ：**tel: 0120-111-957**

受付時間：月～金 AM10:00～PM5:30（土・日・祝日は休み）